

第78回国際獣疫事務局（OIE 総会）の概要報告

<はじめに>

第78回国際獣疫事務局（OIE）総会が、5月23日から28日に、フランスのパリで開催されました。会場は例年どおり、化学会館（メゾン・ドゥ・ラ・シミ）とOIE本部でした。本年は、主席獣医官（CVO）である動物衛生課長は、口蹄疫対策の陣頭指揮にあたっており、OIE総会に出席できませんでした。このため、我が国からは、同課国際衛生対策室長が代表として出席しましたが、今般のOIE総会は、牛海綿状脳症（BSE）で揺れたこれまでの総会とは異なり、比較的穏やかなものになりました。

（議場の様子）



<事務局長選挙>

今回は5年に一度（5年任期）のOIE事務局長選挙が行われました。5月25日の朝に選挙が実施され、現職のヴァラ事務局長が143票中137票の圧倒的多数の信任で再選し、事務局長として3期目に入りました。なお、投票に先立ち、アフリカなどの途上国の多くが支持し、アジアでは中国及び韓国が支持を表明するなど、高い支持率をうかがわせる雰囲気でした。



(再選したヴァラ事務局長 (左))

<BSE ステータスの認定>

BSE ステータスでは、新たに、インド及びペルーが「無視できるリスクの国」に認定されました。また、韓国及びパナマが我が国と同じ「管理されたリスクの国」に認定されました。

<OIE コードの改正>

口蹄疫のコードに新たにコンパートメントの考え方を導入することが決定されました。コンパートメントの考え方とは、一定のバイオセキュリティ措置で守られた施設については、清浄コンパートメントとして取扱い、そこで生産された動物や畜産物は清浄国で生産されたものと同じく、輸出を可能とするというものです。我が国はこれに対して、口蹄疫は強い伝染力を有していること、通常、牛や豚は野外などの開放的な環境で飼育されていることを考えると、効果的なバイオセキュリティ措置の実行可能性はきわめて低く、コードの改正には慎重な検討が必要である旨を指摘しました。韓国は日本の発言を支持しましたが、アフリカ及び EU は逆に導入を主張しました。議長は、我が国の主張に同意しましたが、理論的には、完全に閉鎖された豚農場など特殊な事例であれば適用可能であることから、コンパートメントの考え方を導入し、今後は具体的に適用可能な事例を検討していくことを勧告し、決議されました。なお、現実的には、輸出用豚等が高度封じ込め施設で飼育されることは想定されないことから、これにより直ちに我が国の畜産業に影響するものではありません。

他には、家畜のと殺に関する章の中に、アニマルウェルフェアの観点から、家きんの輸送、食鳥処理及び疾病管理目的の殺処分に関する規定が追加されました。ただし、食鳥処理場への搬入時の「翼折れ」の割合を2%以下とするという部分については、具体的な数値の設定には、その根拠や実態を踏まえるべきという我が国の主張を踏まえて、継続検討とされました。

なお、当初、BSE に関する「特定危険部位」の取扱いについて、不明のリスクの国及び管理されたリスクの国における月齢条件を変更するという改正案が示されていましたが、議長から、まだ議論が十分に行われていないので、改めて科学委員会で検討することとし、今総会での採決は行わないこととされました。このため「特定危険部位」の取扱いに変更はありません。



(OIE 本部での議論の様子)

<OIE コラボレーティングセンター>

うれしいことに、(独)動物衛生研究所と動物医薬品検査所が OIE コラボレーティングセンターに共同で認定されました。この新しいコラボレーティングセンターは、両所が共同して、アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価の分野で国際貢献を果たしていくというものです。我が国は、アジア・太平洋地域の中で、一番多くのリファレンスラボラトリー、コラボレーティングセンターを要しています。今回の認定も、両施設がこれまで積み重ねてきた知見や技術、国際協力の実績が国際的に認められたということの意味しており、国際的に更なる貢献が期待されていると考えています。

<最後に>

牛疫の撲滅宣言については、来年に持ち越されました。本年はバングラディッシュ、カンボジア、カメルーンなど 22 ヶ国・地域が認定されましたが、来年に向けて、スリランカ、カザフスタン、東チモールなど 16 ヶ国・地域に清浄国の評価に必要な文書の提出を促すこととされました。

なお、OIE 総会の記者会見において、事務局長は「日本での感染は一地域に限定されている。また、戦略的なワクチン接種を採用しているので、現時点の情報を見る限り、日本における口蹄疫はコントロールされていると思われる」と発言しています。また、議場の内外では、我が国の口蹄疫発生に対し、多くの国の方々から、丁寧な応援の言葉や励ましだけでなく、限局的な発生にとどめているとして、評価する言葉をいただいたことを付け加えさせていただきます。